愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅱ		
担当者(Instructors)	岩本 光一郎	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本演習では行動経済学に基づき、人間行動について考察することを目的とする。具体的な活動内容は以下の通りである。　・人間の非合理な一面に着目し、現実の社会における様々な事象の理解に役立つ行動経済学を学ぶ　・現実の社会における行動経済学の知見の活用例を見つけて、その内容を理解する　・データを活用して、行動経済学の視点から人間の行動を分析・考察する

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	毎回の演習では図書館やインターネットでの調べ物の結果や輪読したテキストの内容についてのプレゼンテーションを行い、その内容について教室内で討論を行う。そのため、演習時にはインターネットに繋がるPCを必携とする。　※月に一回程度、リモート演習を行う予定

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス	シラバスを基に本演習の目的と内容、進め方等について説明する。	□
第2回	復習：行動経済学について	行動経済学について、前期で学んだ内容を振り返る。	□
第3回	研究テーマの検討 1	各自が卒業論文につながる研究テーマを模索・検討し、その内容をプレゼンテーションする。	□
第4回	研究テーマの検討 2	各自が卒業論文につながる研究テーマを模索・検討し、その内容をプレゼンテーションする。	□
第5回	研究テーマの検討 3	各自が卒業論文につながる研究テーマを模索・検討し、その内容をプレゼンテーションする。	□
第6回	研究テーマの検討 4	各自が卒業論文につながる研究テーマを模索・検討し、その内容をプレゼンテーションする。	□
第7回	研究テーマの検討 5	各自が卒業論文につながる研究テーマを模索・検討し、その内容をプレゼンテーションする。	□
第8回	研究テーマの設定 1	ここまでにまとめたレポートを元に、各自が研究テーマを設定する。	□
第9回	研究テーマの設定 2	ここまでにまとめたレポートを元に、各自が研究テーマを設定する。	□
第10回	研究テーマに関するサーベイ 1	研究テーマに関する文献・資料・データを収集し、検討・分析・考察する。	□
第11回	研究テーマに関するサーベイ 2	研究テーマに関する文献・資料・データを収集し、検討・分析・考察する。	□
第12回	研究テーマに関するサーベイ 3	研究テーマに関する文献・資料・データを収集し、検討・分析・考察する。	□
第13回	期末レポートの作成 1	各章についてのレポートをまとめて期末レポートを作成する。	□
第14回	期末レポートの作成 2	各章についてのレポートをまとめて期末レポートを作成する。	□
第15回	期末レポート報告と総括	前回までに作成した期末レポートの内容についてプレゼンテーションし、その内容について検討して一年間の総括とする。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前：　演習は学生によるプレゼンと、その内容についての全員での討論が中心となる為、プレゼンすべき内容を事前に調べておく（2時間程度）。 事後：　プレゼンした学生は、討論で得られたコメントをまとめて自分のプレゼン内容をブラッシュアップする（2時間程度）。
※ブラッシュアップしたものをまとめて最終講で期末レポートとして提出する

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

各自が調べ、まとめた内容はプレゼンおよびその後の討論を通して、全体で知識・情報を共有する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2021地域ビジネスDP2	各自が選択した行動経済学に関するテーマについて幅広く思考し、またそのテーマについて多面的に判断し、他者に自分の考えを表現、発信することができる。
主体性	◆ 2021地域ビジネスDP3	行動経済学に関する新しい概念を自ら学び、他者と協力して疑問や課題を解決・分析することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

成績評価については、演習中のプレゼンテーションをはじめとする演習への取組具合や、授業内試験（期末レポート報告）の結果等を基に、総合的に評価する。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	必要に応じて随時、指示する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	阿部誠 監修『サクッとわかるビジネス教養　行動経済学』新星出版社	
2	その他、必要に応じて随時指示する。	
3		
4		
5		